

男性教職員の育児休業取得体験談



～男女ともに育児休業をとるのがあたりまえの社会を目指して～



1. なぜ男性教職員の育児休業取得が推進されているのか？

現代社会では男性も育児休業等を取得し、主体的に育児に参画していくことが求められています。

男性教職員の育児休業等取得推進に係る取組は、仕事と子育ての両立による男女共同参画社会の実現や多様で柔軟な働き方の選択が出来ることによる教職員の魅力化につながる重要な取組です。

また出産後の女性は急激なホルモンバランスの変化により心身ともに不安定な状態となるのでパートナーの手助けが必要となります。

児童生徒にとっても、男性が育児休業を取得し、主体的に育児を担っていく姿を見せることは、これからの子育てのあり方を学ぶよい機会になるのではないのでしょうか。

男女共同参画社会の実現

仕事と子育ての両立

多様で柔軟な働き方の選択

教職員の魅力化

高知県ではこの目標に向けて取得を推進しています。

項目	高知県教育委員会の目標	R3年度実績 (高知県公立学校)
・男性の育児休業	令和4年度取得率 <u>30%以上</u> 令和6年度取得率 <u>50%以上</u>	11.6%
・配偶者の出産休暇 ・男性職員の育児参加休暇	あわせて <u>5日以上取得</u> 令和6年度取得率 <u>100%</u>	18.6%

2. 知っていますか？育児に関する休暇・休業などの制度について

Q1 育児休業はどんな制度？

- 3歳未満の子を養育する職員が取得できます。配偶者が育児休業中でも取得する事ができます。

Q2 育児休業を取ったら収入が心配…

- 育児休業中は子が1歳になるまで育児休業給付金が支給されます。取得開始から180日間は標準報酬日額の67%、それ以降は50%です。育児休業中は共済組合・互助会の掛金免除が受けられるので、手取り収入でみると休業前の約8割の収入となります。(180日間の場合)

Q3 育児に関する休暇ってどんなものがあるの？

- 配偶者の出産休暇(3日間) … 配偶者が出産のため入院する等の日～出産後2週間取得可能
- 男性職員の育児参加休暇(5日間) … 出産予定日の8週間前から出産日より1年を経過するまで取得可能
- 育児休暇… 2歳に達しない子を養育する職員が保育所への送迎などその他の世話をを行う場合に取得できる休暇。

詳しくは教職員・福利課働き方改革HPの「育児・介護のための両立支援ハンドブック」をご覧ください。

育児休業と男性職員の育児参加休暇がさらに取得しやすくなりました！

R4.10.1から改正

育児休業の取得可能回数が原則1回から**原則2回まで取得可能**となります！また出生後8週間以内の育児休業に関しても2回取得可能となり、最大4回に分けて取得できるようになります。

男性職員の育児参加休暇の取得可能期間が出生後8週間から**出生後1年まで取得可能**となりました。

改正後育児休業イメージ

(原則2回、出生後8週間以内の育児休業2回)



令和4年度に育児休業を取得した教職員の体験談 No.1

男性教職員が育児休業を取得するタイミングや取得する期間は、個々の状況に応じて様々です。

子育てに携われる時期は、一生のうちで限られており、育児休業等は子どもの日々の成長を身近で感じられるまたとない機会です。家族にとっても、ご自身にとっても良い経験になると思います。積極的に育児参加休暇や育児休業等、育児に関連する制度を活用してください。教職員の子育ての後押しとなるよう、令和4年度中に取得されたご家族の体験談を紹介します。



小学校教諭（30代） 生後1ヶ月頃から約4ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

第3子の出生のため。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

育児休業に関し、職場の理解が一番ありがたかったです。長期にわたる休暇に関しては申し訳ない気持ちが出て、言い出すこともためられました。所属長をはじめ、相談に乗ってくれた教員も大変快く捉えていただき、気持ちが高まりました。休んでいる間も、育児に専念できたのは職場の方々の応援あってのことだと思います。職場復帰した際にもしっかり仕事で感謝の気持ちを伝えたいという思いになりました。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

どの一日も育児休業を取得したからこそできた経験であったと思います。

子どもの成長に向き合えたこと、第3子だけでなく長男長女とも、仕事のことを気にすることなく、一父親として長い時間向き合えたことで、子どもたちの些細な喜びや悩み、良い所や悪い所など、表面的な部分だけでなく内面までしっかり向き合えたことで家族の信頼関係も深まったように感じます。また、普段は仕事が忙しいということで後回しにしたり妻に任せたりしていた家事や育児について、改めて行うことで思っていた以上の大変さややりがいなどを感じ、普段家事を行ってくれる妻や家族に対し感謝の気持ちや気づかひの気持ちが強くなったように思います。また、教員としても、子どもの内面や保護者の気持ちになって学校や子どもと向き合うことで、どのようなことを親が求め、何に苦勞しているかについても表面的な知識だけでなく体験を伴って学ぶことができたように感じます。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

妻はありがたかったと言ってくれています。しかし休みの間に私自身ももっと担える部分があったのではないかと考えています。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

自分にとっては父としての自覚をしっかりと持つことができたことが一番良かったことだと思います。育休取得前と後では子どもや家族に対する見方や考えが変わるような育休の期間だったと思います。

小学校教諭（20代） 生後2週間頃から約1ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

子どものために時間をかけられるのは今しかないのではないかと考え、取得に踏み切りました。

育児と一緒に協力してやることで、子どもの健やかな成長を共に感じるができることは、何よりも幸せだと思います。子どもの成長を日々観察できる喜びは、取ってみないと到底分からないことなので、取得して良かったと思います。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

周囲の方がとても協力的でした。面談等の際に「子どもと関わる立場である教師が、自分の子どものために大きな決断をしたということは教師としても信頼されるべきことではないか。」と、応援されたことがとても印象に残っています。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

子どもとふれ合う時間を多く取れたことや、1日中赤ちゃん向き合う大変さをわずかながら感じる事ができました。母親は、本当に寝てないです。そして常に気を張っています。この気疲れや寝不足からくる疲労の中、一生懸命育児に関わる姿を間近で感じられたことは、家族のために考え行動する原動力になりました。感謝の気持ちや思いやりがないと、いつ糸が切れてもおかしくない状態の妻と、1人では何もできない赤ちゃんのために、どうあるべきか、考えさせられたことが1番の良さかもしれません。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

本当にありがたかったです。経験がない育児に対して、情報を集めながら、模索しながら取り組む妻を支えられるのは、夫しかいません。2人で相談しながら、確認しながら取り組むことができたことに、とても感謝しています。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

私は、男性でも育児休業を取るべきだと思いました。理由は様々ですが、1番は、経験があるとないとは、家庭にも育児にも、ひいては仕事にも及ぼす影響が違い過ぎるからです。しんどさを共に経験しているからこそ心の部分で支えられる。大変さを少しでも理解しているからこそ、そんな中ここまで大事に育った子どもたちを預かるという尊い職に対しての責任感の重さを感じられる。このようにモチベーションや気の持ち方が変わってくるはず。人間は自ら経験したことしか100%信じないと言われます。ぜひ共に育児に携わり、最高の旦那を目指しましょう！



小学校教諭（30代） 生後5ヶ月頃から約1ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

育児に専念するため。

第2子の育児を妻一人でするのではなく、家庭内で自分にできることは少しでもしようと思ったから。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

学校現場の人手が不足しているのは周知の事実です。その中で、育休取得を申し出るには勇気が必要でした。周りからどのように思われるのだろうと、不安も少なからずありました。

しかし、いざ取得するとなったときに、管理職の先生や先輩の先生が、「しっかり、奥さんと子どものために時間をつかってあげてね。」と背中を押してくださり非常にありがたかったのを覚えています。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

育休を取得する前は、自由に使える時間がたくさんあると安易に考えていました（少し期待していました）。実際には育児休業中は、普段の生活と違い1日中、子どもの世話が大変でした。少し目を離すと、命の危険にさらされる赤ちゃんを見ることは気が休まらず神経が磨り減る思いでした。

一方で、教育に関する書籍を新たに読んだり、昔読んだ書籍を読み直したりするなかで新たな気付きを得ることができました。そういう意味では、一度、教育の現場から距離をおく経験は良かったのかもかもしれません。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

第一子の時は育児休業を取得してもらわなかったもので、子どもの世話のせいで夫の仕事に支障がでるといけないと思い、平日は日中のお世話はもちろん、私一人で夜中もどうかしないといけないと思い、体力的にも精神的にもしんどいことが多かったです。

第二子の時は、たった1か月でしたが、体調や精神的にしんどいときは、夜中のお世話をお願いしたり、子どもの病気のことを相談したり、離乳食について一緒に考えたり、調べたりすることができ、一緒に子育てをしている喜びを感じることもできました。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

私は短い間の取得でしたが、素晴らしい経験でした。子どもが子どもである期間は意外と短いです。我が子が初めて、離乳食を食べるようになったり、よちよちと歩けるようになったりする姿をリアルタイムで見られないのはもったいないです。世の中は育休取得を推奨していますので、検討されている先生はぜひ取得をオススメします。

中学校教諭（30代） 生後2ヶ月頃から約1ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

一人目の子どもの時、妻の体調や肉体的・精神的なしんどさがありました。また今回が2人目ということもあり、長女が気持ち的にも不安定になることが予想されることから、妻と話し合いをし、育児休業取得を決めました。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

育児休業を取得する時期までに、やらなければいけない仕事を終わらせたり、区切りのいいところまで持っていくことには本当に苦労しました。講師の先生の配置もないということで、いろんな先生方（特に学年団、教科の先生）に授業や分掌で迷惑をおかけしたところは本当に申し訳なく感じましたし、感謝しありません。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

子どもが小さい時期に、1か月間ですが関わったのは大きかったと思います。妻が普段一人でしていることを自分自身が体験することで、育児と家事の両立がどれだけ大変なものなのかということを実感しました。また、長女とも平日はなかなか関わることでできていなかったのですが、一緒に過ごす時間が増えたことで、育児休業取得中は、以前より落ち着いた様子で過ごすことができていたのではないかなと思います。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

取得までの準備や復帰後のことを考えると大変取得が難しい仕事と思いますが、取ってくれた主人に感謝しています。生まれたての子どもとの貴重な時期に夫婦二人で協力したり、時間を赤ちゃんとも共有することができてよかったです。特に上の子がいたので助かりました。私達以後も男性が気持ちよく育休を取得できるよう応援したいです。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

育児休業を取得したことは、先生方に申し訳ない気持ちもありました。ただ、それをいろんな先生方が前向きな声をかけてくれたりすることで救われました。子どもが小さな時期、その時間に自分自身が関わることができたのは、とても貴重でかけがえのない時間でした。育児は本当に大変なものだと実感し、妻に対する感謝の気持ちもさらに大きくなりましたし、自分自身にとってもいろんな経験を積み、成長できた1ヶ月間だと感じました。男性が育児休業を取ることによって抵抗がある方もいるとは思いますが、子どもの成長はあっという間なので、その時間をぜひ過ごしてみてもはどうでしょうか。



小中学校事務職員（30代） 生後13ヶ月頃から約2ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

妻の負担を少しでも軽くしたいと考えたことと子どもと触れ合える時間を増やすため。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

職場の方々から育児休業取得への後押しをしていただけたことにはとても感謝しています。育児休業を取得する際の一番の悩みは周囲の方々に迷惑を掛けてしまうという心配でした。しかし、周囲の方々が育児休業の取得について否定的ではなく、気持ちよく送り出していただけたことにはとても感謝しています。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

私の場合、妻と育児休業が1か月程度重なる時期がありました。妻とともに子どもと接する時間を共有できたことは、とても貴重な時間だったと思います。子どものために何ができるだろうと毎日考えられる時間があるのは家族にとってとてもプラスになりました。また、育児休業取得中に妻と喧嘩することも多くなると思っていたのですが、そんなことはなく育児休業取得前より夫婦仲は円満になり、家族の絆が強くなったと感じます。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

平日は、仕事が終わってから育児や家事をしてもらっていたので、子どもが日中どのように過ごしているのかを育児休業を取得してもらい知ってもらえたのはとてもよかったと思います。子どもも育児休業取得前よりも夫に甘えることが多くなりました。また、夫が育児休業中に私も仕事に復帰をしたので、職場に慣れるまでの数週間、育児や家事をお願いすることができたおかげで、仕事にも集中することができ、安心して育児を任せることができました。

家族の時間が多くとれた事は、子どもと私にとって、とても有意義でした。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

子どもの成長が著しい時期に子どもと一緒に過ごせたことはとても幸せに思います。育児休業取得前は不安でいっぱいでしたが、取得後は取得してよかったととても満足しています。今後、第2子が生まれた際にはもう一度取得したいと思えるくらい満足しています。

育児休業取得後は「子どものためにも仕事を頑張るしかない」と仕事に対する意欲も湧き、ワークライフバランスの重要性が再認識できました。取得する機会があれば、積極的に取得するべきだと考えます。



中学校教諭（30代） 生後0ヶ月頃から約1ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

普段から私の帰りが遅かったり、週末は部活で家を不在にしたりすることも多いため、平日の長男の保育園の送迎やお風呂、寝かしつけ、休日の子どもの相手など、妻に頼りっきりになっていました。妻は毎日のように「疲れた～」と言っていたので、二人目の出産に伴い、少しでも育児に関わり、妻の負担を減らすことができたらと思い、育児休業を取得しようと思いました。また、同僚の男性教員が育児休業を取得したときの話を聞くと、奥さんにとっても喜んでもらえた、上の子が小さいときに育児を一人でするのは大変。ということも聞いていたことも取得しようと思ったきっかけの一つでもあります。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

1ヶ月間職場を離れるということもあり、授業や学年の対応、分掌の仕事など、1ヶ月私が不在にしても対応できるように、考える準備は事前に行いました。しかし、いざ不在にしてみると、準備不足なことも多々あり、様々な先生方にご迷惑をおかけしました。その都度、学年や分掌などの先生方に対応していただき、非常に感謝しています。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

出産に伴い、妻がヘルニアになってしまい、病院から自宅に帰ってきて、座ることや、横になることもままならない状態でした。そのため、普段、妻に行ってもらっていた、保育園の送迎や長男の寝かしつけ、休日の相手などを行っていました。また、夜泣き時も、妻は赤ちゃんを抱えて持ち上げることができないので、私も夜泣きと同時に起きて、赤ちゃんを妻に渡し、授乳が終わったらおむつを替えて2時間寝る、というような生活を送っていました。

家のことは基本的には私が行っていましたが、個人的に一番大変だったことはご飯を3食作るということでした。朝食後には、昼食を何にしようか、夕食は何にしようかなどを毎日考える日々でした。この1ヶ月の経験を通して、世の中の家事や育児をされている方の大変さを痛感しました。そのため、育休を取得したことで、今後も、妻に任せっきりにするのではなく、少しでも妻の負担を減らす努力をしようと思える良いきっかけになりました。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

妻には非常に喜んでもらえました。出産時にヘルニアになったということもあり、自分一人では、本当に何もできず困り果て、どうしたらいいかわからなかったと言われました。現在は、妻の腰も安定しつつある状況ですが、今でも育児休業を取得したときのことは感謝されます。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

育児休業を取得するにあたって、大変なことも多いですが、子どもと関わる時間は圧倒的に増えます。私は、育児休業を通して、今まで以上に愛情をもって子どもに接することができるようになりました。私の取得期間は1ヶ月という期間でしたが、その期間でも、子どもの様々な変化が目に見えて嬉しかったです。多くの方が育児休業を取得されることを願っています。

特別支援学校教諭（30代） 生後0ヶ月頃から約6ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

男性の育児休業取得については、以前職場で一緒にいた先輩が取得されていたこともあり、比較的身近な制度だという認識がありました。第一子が生まれたときは、ほとんどの育児を妻に任せっきりであった反省を活かし、第二子の育児においては積極的に取組もうという思いがあり、妻と話し合ったところ、ぜひ育児休業を取得し育児に参加してほしいと言われました。その後相談した先輩教員に、「うちの夫も取得して人間的に成長したと思うから、取った方がいいと思う！」と言われたこともあり、取得をする決心をしました。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

育児休業を取得すると職場の方々に報告したところ、肯定的な言葉を多々いただき、後押しをされた気分になりとても感謝したのを覚えています。学年団にも「あとのことは任せて！」と言ってもらったこと、安心して育児に取り組むことができました。年次研修の予定も調整していただき、とてもありがたかったです。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

赤ちゃんが生まれてすぐに第一子の赤ちゃん返りがあり、主に妻が第一子と接していたため、赤ちゃんの面倒は自分が見ることが多かったです。そのため生後8か月を経過した現在でも第二子はとても懐いてくれており、育児休業を取得して良かったと思いました。将来我が子が大きくなったとき育休中の思い出話をするのが楽しみです。また、新生児から我が子と深く関わることで子をもつ保護者の気持ちへの理解がより一層深まったと思っています。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

夫と赤ちゃんの成長を日々一緒に噛みしめることができ嬉しかったです。育児への参加も助かりましたが、育児の大変さを分かってもらったことが一番よかったと思います。復帰後も変わらずサポートしてくれるのでとても助かっています。もっとこの制度が広まってほしいです。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

赤ちゃんと半年間一緒に過ごしましたが、その期間は本当にあっという間でした。二度と戻ってこないこの時期を一緒に過ごせる経験は何事にも代えがたいと思います。また奥さんへのサポートを行うことや、家庭で過ごす時間が増えることで家族の絆も深めることができるので、ぜひ率先して第一子から育児休業の取得をしていただきたいと思います。「なんで育休取るの？」ではなく「なんで育休取らないの？」と言われるような世の中に僕たちがしていきたいと思います。

特別支援学校教諭（20代） 生後1ヶ月頃から約1ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

夫婦で子育てにゆとりをもって取り組める時間がほしい、ということを経娠初期から話していたため。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

管理職の先生方をはじめ、学級・学年の先生方は言うまでもなく、学校の教職員の方々に感謝してもしきれません。「遠慮なく（育児休業を）とったらいいよ」と管理職の先生方をはじめ、何人もの先生方に声を掛けていただきました。私自身の仕事の不備や引継ぎのミス等を補っていただいたこともたくさんあり、私自身の仕事の進め方を見直す機会にもなりました。育児休業の取得前ですが、妻の体調面が心配だったときに何日かお休みをいただきました。周囲のご理解があり、日程で無理をしていただいたことも多くありました。今回、私たち夫婦は様々な形でお休みを頂けたことで、二人で息子に向き合い、成長も心配も共有することができました。二人目、ということになれば夫婦二人だけではなく、長男とともに新しい家族に向き合わなければならないと感じています。男性職員が家族のために取得する休暇・休業への理解が、私の勤務校のように、高知県全体で進むことを願います。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

小さい子どものお世話をするのが全く初めての私にとって、育児への参加は覚えることの連続でした。おむつ替えは何度も失敗し、子どもの服や座布団など数えきれないほど洗濯をしました。育児休業を取得させていただいたからこそ、育児に必要なスキルをゆっくりと時間をかけて身に付けることができました。また、妻の職場復帰後の話や家事分担の話など、時間をかけて少しずつ話し合うことができ、職場復帰後も円満に過ごすことができています。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

夫が育休を取得したことで、心身ともに余裕をもてたことがよかったです。大人が常に2人いる状況があったからこそ、大変なことに目がいくばかりではなく、楽しみながら育児のスタートを切ることができたと思います。夫が職場に復帰してからも、負担が大きく偏ることなく家事育児を自然に分担できており、以前よりお互いを思いやりながら過ごせるようになりました。そのような面でも、育休期間があってよかったなと感じています。欲を言えばもう少し長くともってらって、通院、離乳食、保育園探しなども一緒にできたらもっとよかったです。職場の協力があってこそこの休みなので、1か月ももらえたことには本当に感謝していますが、男性の長期休暇は女性に比べて取りづらい、という空気はまだまだあると思います。休みの間、他の先生方に負担がいかないシステムづくりがこれからどんどん進んでいくと嬉しいです。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

家族が増える、という環境の変化に家族で向き合える時間はかけがえのないものだと思います。育児休業取得前の仕事の前後の短い時間では、子どもの手のかかる面が強調して見えてしまっていました。しかしながら、育児休業を取得し、ずっと子どもを見ていると少しずつ首がしっかりしてきたり、目で追いはじめたりと余裕がないと見逃してしまいそうな変化に気付くことができました。些細な変化の嬉しさをぜひ、たくさんのお父さんに気付いてほしいと思います。

特別支援学校教諭（30代） 生後0ヶ月頃から約2ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

私たちは今回が二人目の出産だったのですが、一人目の時は、妻の実家が近く、出産前後は里帰りしてお世話をしてもらうことにしていたので、私も妻も私が育児休業を取るという発想自体が出てきませんでした。

しかし、実家から遠方の地に引っ越ししたことと、妻が友人夫婦から「夫婦そろって育児休業を取得し、子どもの成長の様子を常に夫婦で共有することができて良かった。」という話を聞いて、私に提案してくれたことがきっかけでした。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

育児休業を取得するにあたっては、まず、育児休業についての資料を読み込み、心配していた給与の代わりとなる手当のことや、取得方法等を確認しました。

そうして不安を解消し、育児休業を取得することを決めたのですが、年度末時点では、分掌部長を任されていたこともあり、来年度も部長を担うこととなった場合、不在の期間の分掌業務をどう引き継ぐかという点にも頭を悩ませました。

在籍校では、副部長の選定ができるようになったこと、分掌業務を分担するよう管理職の先生が相談に乗ってくれたこともあり、簡単なマニュアルや手順書等の作成はしましたが、副部長を中心に仕事を他の部員に分散して業務を行える体制を整えることができました。さらに、育児休業をとるにあたっては、同じ学級、学部の先生方にも負担をかけることと思ひ、心苦しい面もありましたが、「育児を楽しんで」と後押ししていただけたことが、本当にありがたかったです。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

育児休業中は、家事や長男の保育園の準備等、いつもは妻と分担している事をこなす必要がありました。そこで、家事の大変さを再確認し、改めて分担することの重要性を感じるとともに、これまで妻に任せていた仕事が、思ったより大変で、分担した仕事も交代しながらやっていくことの必要性も感じました。一方、長男の時は、妻や妻の家族にお任せしていた沐浴や健診等にも、参加することができ、3kg足らずだった小さな存在が、短い期間でもどんどんと成長し、体重が増えたり身長が伸びたりという身体的な変化だけでなく、視線を合わせてくれるようになったり、笑顔を見せてくれるようになったりする場面にも立ち会うことができました。また、長男との関係でも、保育園への送り迎え時に園での様子を聞いたり、二人で遊ぶ時間を増やすことができたりと、より深く関わることができました。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

産後で心身ともに不安が多い時期に、一番身近な家族が側にいてくれて、家事だけでなく長男の世話や次男のオムツ替え、沐浴等にも協力してくれたことで、安心して生活することができました。また、一緒に子育てをすることで、喜びや難しさ等を共有しながら、新しい家族をみんなで迎える心もちができたように思います。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

長男の育児にも仕事をしながら関わってきたつもりでしたが、育児休業をとって、時間にも心にも余裕がある中で子育てに参加してみると、新生児期の子どもの成長の速さに驚かされました。また、子どもの小さな成長にも目を向けることができたこと、そしてそれがこんなに嬉しいことであることを実感することができました。

育児休業となると、周囲への影響を考えて躊躇することもあると思います。自分もそうでしたが、周りの方々の協力で、本当に楽しく貴重な時間を過ごすことができました。皆さんには感謝の言葉しかありません。

これから育児に臨まれる方、特に男性の方は、育児・介護休業法改正により、これまで以上に育児への参加がしやすい環境になると思われるので、これらの新たな情報も取り入れながら、ぜひ前向きに育児に関わっていただければと思います。

高等学校教諭（30代） 生後0ヶ月頃から約8ヶ月間取得

●育児休業を取得しようと思ったきっかけ

妻と第二子の誕生を迎えるなかで、乳児期の育児に二人で専念しようという結論を出しました。理由としては、第一に産後の妻にかかる負担を軽減したいという思いが私にあったため、第二に、第一子である長男が二歳と幼く、新たな家族を迎えるにあたって、兄としての我慢を強いることをさせたくないと考えたためです。

●育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと

休業取得をすることを夫婦間で決めた段階で、できるだけ早くご相談するように心がけました。管理職の先生方、周囲の先生方には年度途中で職場を離れることから、ご負担をかけるにもかかわらず、温かく対応していただきました。また引き継いで、授業・分掌業務を担っていただいた先生方のおかげで、安心して休業に入ることができました。

●育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと

日中は私が家事全般を担当し、妻は夜間の授乳に集中するという分担を行いました。取得してよかったこととして、まず第一に 新生児が8か月という期間の間に、日々成長する過程を目にすることができたことです。

また夫婦、二人の目で見ることで、新生児の体調や、様子の変化にも、不安を抱くことが少なかったです。第二に、第一子が妹の存在を肯定的に受け入れることができ、兄として妹を守ろうという姿勢を見せるとともに、素直に言葉で寂しさを表現しながらも、一人でやれることをやろうとするなど状況の変化に適應することができました。第三に、妻にかかる負担を軽減することができ、あらためて夫婦間の信頼を確かめることができました。

●あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想

妻からは「休業を取ってくれて、本当に良かった。一人だったら無理だったと思う」という言葉を受け取りました。

●これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと

当たり前のことですが、出産・育児について、夫婦間で相談することが大切だと思います。その中で、男性の育児休業取得という選択肢が、現実的なものであるということを先生方がお感じになっていただければとも思います。

私個人の体験で恐縮ではありますが、夫婦二人で産後の時期を乗り越えることができたことは、今後の家族にとって、非常に重要な意味を持っていると感じています。この8か月間の経験が、これから10年、20年先の夫婦、家族のつながりを作っていく礎になるのではないかと思います。



高等学校教諭（20代） 生後0ヶ月頃から約1ヶ月間取得

- 育児休業を取得しようと思ったきっかけ**
妻から相談があり、産後直後の体調が戻っていない時期の妻をサポートするために育児休暇の取得を考え始めました。管理職の先生や周りの先生に相談し、多くの先生方に背中を押ししてもらい育児休暇の取得を決めました。
- 育児休業を取得するために準備したこと、周囲の方に感謝したこと**
育休を取得する年に異動があり、新しい職場の先生方に育児休業取得の話を出せずモヤモヤする日が続きました。しかし、話をしてみると皆さん祝福してくださり、とても気持ちになりました。
また、同じ分掌・教科の先生が「学校のことは気にせず休んでください」と言ってくれ、育休に理解のある職場の先生方にとっても感謝しています。
- 育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと**
一番良かったことは、初めての育児の苦労を妻とともに経験することができたことです。何をすることも正解が分からず試行錯誤しながら過ごした一カ月間で、想像していた何倍も大変でした。この経験のおかげで仕事に復帰してから妻の負担を減らすことができるよう、家事や育児に積極的に参加することができています。
- あなたが育児休業を取得したことについて、配偶者の方の意見や感想**
初めての育児への私自身の不安と、子どものかけがえのない乳児期を少しでも多く夫にも経験して欲しいという思いから、産後1カ月の育休の取得を相談させてもらいました。育休中、子どもの世話を通して子どもとしっかり関わってもらえたことで、復帰後の仕事と育児の両立も夫自身の負担が少しは軽減されているのではないかと感じますし、同じ目線で子どもに関わることができることで、私の育児に対するプレッシャーも和らいでいると感じます。
育休の1か月、今後育児をしていくにあたってとても大事な時間になりました。これからお子さんが生まれる男性教職員にはぜひ育休取得をしていただきたいですし、育休取得が今以上に当たり前になっていけばいいと思います。
- これから育児期をむかえる教職員に対して伝えたいこと**
自分は1カ月という短い期間でしたがその間に学んだことはとても多く、子どもをもつ女性の大変さや自分自身の成長など育児に関する考え方が大きく変わりました。職場のことを考えると育児休業を取得することはとても勇気が必要なことだと思いますが、短期間でも取得し、奥さんのサポートをしながら、子どもとのかけがえのない時間を大切にする働き方を考えてみてはと思います。

これからの男性の育児休業等の取得推進について

男性の育児休業等の取得推進は、ワークライフバランスの実現やこれからの子育てのあり方について学ぶうえでも重要なものです。学校における意識改革や働き方改革を進め、各学校におかれましても男性の育児休業取得推進等の取組について、ご理解・ご協力をお願いします。



発行：高知県教育委員会事務局教職員・福利課

〒780-0850 高知市丸ノ内1-7-52 電話：088-821-4901 FAX：088-821-4725

E-Mail：310601@ken.pref.kochi.lg.jp